



## 現代中国の階層変動を 追いかけて

東京大学大学院情報学環/東洋文化研究所 教授 **園田茂人**



### 研究の背景

今から四半世紀前、修士論文を書き上げたのですが、そこで「グローバル化とともに中国では不平等が拡大し、階層構造に大きな変化が起こるだろう」と論じました。グローバル化(中国語で「全球化」)の概念が市民権を得る以前の話で、留学先の中国の友人に「中国は過剰平等に悩まされているのに」と一笑に付されたことを今でもよく覚えています。そんなはずはない、社会主義を達成した中国も市場経済化の中で不平等に悩まされるはずだと予想していたものの、この仮説を検証するには時系列調査が不可欠です。

中国でも外国人との共同調査が可能になるのは、1990年代になってからですが、不平等や階層といった問題は、中国で政治的に敏感な問題でした。科研費の重点領域研究「現代中国の構造変動」が始まり、社会班のメンバーとして活動を始める中で調査をする必要性を感じ、現地のパートナーと共同研究を始めるのが1997年、今から13年前のことです。

### 研究の成果

その後、中国政府も不平等の拡大を憂慮するようになり、2000年あたりから不平等や階層を対象にした調査が行われるようになります。私たちは、それに先んじて時系列データを取ることを計画し、2006年から2007年にかけて、同じ地点、同じサンプリング方法で調査を実施、2時点での結果を精査することで興味深い知見を得ることに成功しました。

その具体的な成果は拙著『不平等国家 中国』(2008年、中公新書)に集約されていますが、この8年ほどの間に学歴による収入格差が大きくなっているものの(図1)、学歴に対する不公平感は広がっていないこと、中間層でも、特に国有セクターの収入増加が顕著なことなどが(図2)、具体的な知見です。

### 今後の展望

海外の研究仲間からは、「あと1回、時系列調査ができれば素晴らしい」と言われます。私も十分にその気ですが、そのためには再び科研費をいただかないといけません。さて、うまくいくでしょうか?

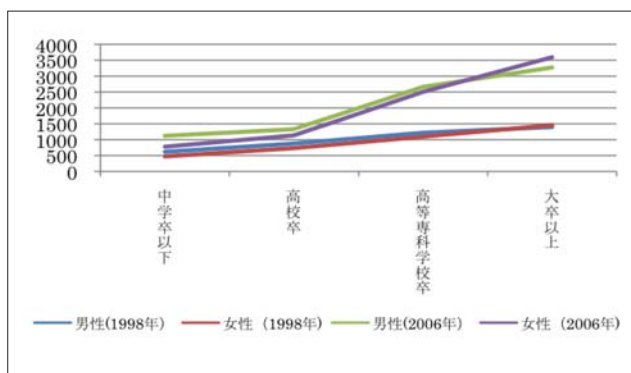


図1 学歴別にみた月収の違い(単位:元/月)

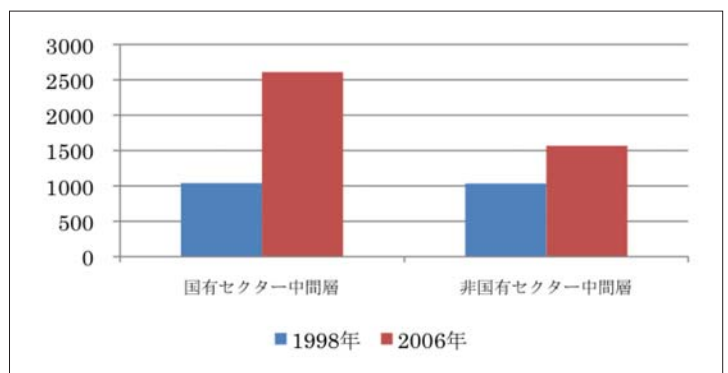


図2 セクター別にみた中間層の平均月収(元/月)

### 関連する 科研費

平成 9-10年度 国際学術研究 「現代中国における『中間階級』の生成に関する共同研究」  
平成16-19年度 基盤研究(B) 「現代中国の階層変動に関する比較社会学的研究」